

南アルプス市立八田中学校 前期自己評価書

平成30年8月21日(火)作成

学校長：石丸 洋一

記述者：教頭 青柳 俊也

1. 校訓 「日日新」
2. 学校教育目標
心豊かで かしこく 心身ともに健やかな生徒の育成
3. めざす生徒像
＝「知育・徳育・体育」の調和のとれた人間形成＝

は	励んで学び、確かな知識を持つ生徒	(知育)	→	知の力
っ	強い精神と身体を持つ生徒	(体育)	→	体の力
た	助け合い、いたわり合う心を持つ生徒	(徳育)	→	心の力

『当たり前のことを 当たり前にする』

4. 学校経営方針
 - (1)職員の創意・工夫により、開かれた特色ある信頼される学校づくりに努める。
 - (2)生徒理解を深め、一人一人のよさや可能性が活かされるよう努める。
 - (3)教職員としての資質能力の向上を図り、信頼される教育活動の実践・展開に努める。
 - (4)家庭・地域との連携により、望ましい教育環境づくりに努める。
5. 生徒の努力目標
 - (1)授業にしっかり取り組もう (主体的・能動的・積極的に取り組めたか)
 - (2)さわやかに挨拶をしよう (今日の、この出会いを大切に出来たか)
 - (3)思いやりの心を行動につなげよう (相手の身になって考え行動できたか)
 - (4)主体的に活動しよう (3本の木を大切に、創意工夫を持って取り組めたか)
6. 教師の努力目標
 - (1)社会や地域の変化に対応できる力を持ち、常に自らを見つめ直していく教師
 - (2)異なるものを受け入れ児童生徒の特性を見だし伸ばしていく教師
 - (3)教職に対する責任感、探究力を持ち、生涯にわたり学び続けていく教師
 - (4)教員と生徒、また教師同士で互いに学び合い、育て合っていく教師
7. 学校経営の努力点
 - (1)知・徳・体の調和の取れた、「生きる力」をはぐくむ教育課程の編成と実施に努める。
 - (2)自ら学ぶ意欲を高め、基礎学力の定着を図る指導に努める。
 - (3)豊かな人間性をはぐくみ、心の安定を図る生徒指導に努める。
 - (4)体力・健康・安全に関する指導の充実に努める。
 - (5)家庭・地域・関係機関との連携を深め、開かれた信頼される学校づくりに努める。

I 全体評価

1. 教職員の自己評価

(1) 本年度の特徴

① A・B (肯定的評価) の合計が100%の項目について

「学校運営1: 学校教育目標達成のために「授業づくり」「安全・安心な学校生活」「いじめのない学校」の教育活動に取り組んでいる」

「生徒指導1: 「いじめのない学校」に取り組んでいる」

「生徒指導2: 生徒が「安心・安全な学校生活」を送れるようにしている」

「生徒指導4: 生徒に気軽に声掛けなどを行っている」

② A・B (肯定的評価) の合計が90%未満の項目について

「学校運営3: 外部講師等を活用するなどし、教育活動に取り組んでいる」(89.5%)

「教育課程3: 授業や単元のおわりなどに、「めあて」を達成しているかどうかを評価している」
(88.2%)

「教育課程4: 道徳の授業はもとより学校生活全体にわたって道徳性が育つようにしている」(70.5%)

「教育課程6: 総合的な学習の時間が、生徒の「生きる力を育む」ものとなっていると思う」(83.3%)

③ D (否定的評価) がついた項目について

「学校運営2: 教育活動等にかかわる生徒の活動や学習の様子などを、「たより」等で家庭に知らせている」

「教育課程4: 道徳の授業はもとより学校生活全体にわたって道徳性が育つようにしている」

(2) 2学期の取組課題（自由記述より）

- ・「道徳」の授業が、行事の取組の時間になってしまい、本質を考える必要性を感じる。
- ・行事を通して得たものや感じたことを、普段の生活に活かせるようにしたい。
- ・生徒会活動(自治活動)の中心である「三本の木」、合唱(表現活動)・応援(表現活動)・部活動の取組に、前向きに取り組んでいる。しかし、その取組がまだ、あいさつ・返事などにつながっていない生徒が多いことが課題である。気づき・考え・実行することができる生徒の意識改革や育成に向けて、これからも組織的・継続的に取り組んでいきたい。
- ・体調が悪くなくてもマスクをしている生徒たちがまだ見られる。
- ・白を基調とした下ばきを履いていない生徒がまだ見られる。気づいた教職員全員が、生徒に注意を促していくことが大切である。
- ・学力向上に向けて、家庭学習の習慣を定着させる。
- ・気づき・考え・実行するという校長先生の方針が、生徒及び教職員に浸透してきている。
- ・行事を経験するたびに、生徒が成長できていると感じる。
- ・行事が集中してしまうときがあるので、行事の精選と分散化を、小中連携も含めて検討していきたい。

2. 学校生活に関する生徒アンケート

(1) 本年度の特徴

① A・B（肯定的評価）の合計が80%以上の項目(全校集計から)について

24項目(除携帯電話項目)中22項目において、肯定的評価が80%以上となっている。また、90%以上が17項目あり、生徒が学校生活全般に渡り肯定評価している傾向が如実である。

② C・D(否定的評価)が高い項目(20%以上)について

ア 3年生の評価

3項目だった。

「あなたは、学校などからの「たより」や通知を家庭の人に渡していますか」(23.4%)

「あなたは、授業が全般的にわかりやすいと思いますか」(23.4%)

「あなたは、教室前出入りに設置されている「タブレット」からのインフォメーション(連絡)を見ていますか」(28.9%)

イ 2年生の評価

3項目だった。

「あなたは、学校生活が全般的に楽しいと思いますか」(21.3%)

「あなたは、「家庭学習ノート」(自主学習ノート)に取り組んでいますか」(27.3%)

「あなたは、教室前出入りに設置されている「タブレット」からのインフォメーション(連絡)を見ていますか」(25.7%)

ウ 1年生の評価

2項目だった。

「あなたは、「家庭学習ノート」(自主学習ノート)に取り組んでいますか」(41.7%)

「あなたは、教室前出入りに設置されている「タブレット」からのインフォメーション(連絡)を見ていますか」(28.4%)

(2) 備考欄への記述

- ・あいさつをもっとたくさんの人にしてほしい。
- ・あいさつを先生たちが返してくれない。
- ・生徒の間で「死ね」という言葉が多い。
- ・タブレットの電源がついてないときがあるからあまり見ない。
- ・タブレットを教室に設置してほしい。
- ・タブレットの中の情報はその日の連絡だけにしてほしい。
- ・先生の教え方で、わかりにくい授業もある。

(3) 2学期の取組課題(90%未満の7項目を課題とする)

「あなたは、学校などからの「たより」や通知を家庭の人に渡していますか」(80.5%)

「あなたは、学校生活が全般的に楽しいと思いますか」(84.3%)

「あなたは、授業が全般的にわかりやすいと思いますか」(81.0%)

「あなたは、学校や学年・学級へ提出するものが出せていますか」(89.5%)

「あなたは、「家庭学習ノート」(自主学習ノート)に取り組んでいますか」(75.2%)

「あなたの学級では、話し合いなどの取組ができていると思いますか」(85.7%)

「あなたは、教室前出入りに設置されている「タブレット」からのインフォメーション(連絡)を見ていますか」(72.2%)

Ⅱまとめ(成果と課題)

この自己評価では、評価基準として教職員自己評価のA・B評価が90%以上、生徒アンケートのA・B評価が80%以上に設定した。この基準からは「肯定感と満足感」が伝わり、大きな教育成果のひとつとなると捉える。

(1) 教職員の自己評価について

- 「外部講師等を活用するなどし、教育活動に取り組んでいる」について、合唱や武道においては講師を招聘しているが、教科により講師招聘には偏りが生じる。
- 授業の「めあて」の提示については、全職員で意識されているが、「授業や単元のおわりなどに、「めあて」を達成しているかどうかを評価している」については、まだまだ意識は高くない。
- 「伝え合う力」をつけさせる「授業づくり」では、小中連携した校内研のテーマとして取り組んでいるが、現在模索している状況にある。
- 「道徳」については、教育活動全般にわたり意識されているが、行事が多くその取組となることもある。来年度より教科化されることを念頭に、着実に授業の実践を進めていく必要がある。
- 「いじめのない学校」「安心・安全な学校生活」という面では、全職員が高い意識を持っている。

(2) 生徒のアンケート結果から

- 八田中生徒会活動の中心となっているのが、「合唱」「応援」「部活動」の伝統の「三本の木」である。その中でも、「合唱」と「応援」については、生徒の意識が高く、大きな誇りとして、積極的な取組となっている。
- 「学校生活が全般的に楽しいと思いますか」の項目において、A・B評価が全体で8割を超えているが、逆に、C・D評価が1割を超えている状況がある。また、「あなたは、「八田中学校いじめ0宣言」に取り組んでいますか」「あなたは、「安全・安心な学校生活」が送れていますか」の項目において、生徒の肯定的評価が高く、95%を超えている。しかし、そうでない生徒もわずかではあるが数名いる。ともすると、評価の高さだけに感心してしまいがちだが、そうでない生徒がいるということを常に意識し、一人ひとりとのコミュニケーションをとり、楽しく安全にそして安心して過ごせる学校を生徒全員が実現できるよう、努めていかななくてはならない。
- 携帯電話(スマホ)の保有率は全校で70%を超え、特に2年生では80%に達している。携帯電話でのルールについては、1年生66.0%、2年生56.6%、3年生44.8%と学年を追うごとにルールが緩くなっている。携帯電話をめぐるトラブルは既に報告されている。6月29日に本校では講師を招聘して、携帯・スマホに関する防犯集会を開催した。今後も、保護者への啓発を行うとともに、生徒自身が危険を把握したうえでどうすべきかを主体的に考えるよう、生徒指導主事を中心に指導を図っていく必要がある。

職員も生徒も肯定的評価は高く、この高評価は、生徒との信頼関係を築いてきた先生方の日々の努力のあらわれであると確信している。

この高評価に甘えることなく、高い評価はさらに伸ばせるように、また低い評価については改善が図れるように全職員で共通理解を持ちながら取り組むことが必要であると考えます。